

令和8年産米の生産目標（生産の目安）について

令和7年11月19日に滋賀県農業再生協議会臨時総会が開催され「令和8年産米の生産目標(生産の目安)」が決定されました。その概要は以下のとおりです。

1. 国の生産目標(生産の目安)

国の「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針(10 月公表)」において、令和8年7月～令和9年6末の需要量 694～711 万トン(表1 D欄)を踏まえ、令和8年産米における主食用米等生産量の目安は、711 万トン(表1 B 欄)と示された。

表1 令和8/9年の主食用米等の需給見通し(万トン)

| R 8 / 9 年 | | | 玄米ベース |
|-----------------------|---------------|-------|---------|
| | R8年6月末民間在庫量 | A | 215～229 |
| | R8年産主食用米等生産量 | B | 711 |
| | R8/9主食用米等供給量計 | C=A+B | 926～939 |
| | R8/9主食用米等需要量 | D | 694～711 |
| | R9年6月末民間在庫量 | E=C-D | 215～245 |

2. 令和7年産米の集荷、供給状況

京阪神の卸等は、より近郊の産地の主食用米を集荷したい意向を有するが、米価の上昇や流通が多様化することで、卸等が求める近江米の数量を供給できていない状況。

令和8年産米について卸等が求める量を供給していくためには、令和7年産米を上回る生産が必要な見込み。

3. 令和8年産米の作付拡大可能面積

需要に応じて作付されている各品目毎の作付は継続する必要。

一方、令和8年産麦の播種前契約で減じた面積や、地域内流通で結びつきのない飼料用米作付面積を、米の作付拡大が可能な面積として以下のとおり推計。

| | | |
|---------------|-----------|---|
| ①麦の播種前契約減少面積 | 620 ha | } 29,497ha×519kg/10a÷153,000 トン (平年単収) |
| ②飼料用米転換可能面積 | 361 ha | |
| ③令和7年産米の生産の目安 | 28,516 ha | |

4. 令和8年産米の生産の目安

国からは需要に応じた生産が示される中、本県では、京阪神の卸等に必要な近江米の数量を供給できていない状況にある一方で、主食用米以外の作物の需要に基づく継続した生産も必要なことから、令和8年産米の県全体の作付面積を令和7年産実績とほぼ同等とし、生産の目安を153,000トンと設定(表2)。

表2 令和8年産米の生産目標（生産の目安）

| | 滋 賀 県 | | 全 国 | 参 考 |
|--------------|--------------|-------------|-----------|----------------|
| | 数量(トン)A | 面積換算値(ha) | 数量(万トン)B | 滋賀県シェア (%) A/B |
| 令和7年産米生産目標 | 148,000 | 28,516 | 683※1 | 2.16 |
| 令和7年産米生産実績…① | 157,000 | 29,300 | 747 | 2.10 |
| 令和8年産米生産目標…② | 153,000 | 29,497 | 711※2 | 2.15 |
| 比較 ②-① (②/①) | -4,000 (97%) | +197 (101%) | -36 (95%) | — |

※1 令和7年産の全国の値は当該前年10月に公表された基本指針における「主食用米等生産量」

※2 令和8年産の全国の値は本年10月末に公表された基本指針における「主食用米等生産量」